

株式の状況

株式数及び株主数 (2023年3月31日現在)	
発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	3,909,800株
株主数	916名

大株主 (2023年3月31日現在)		
	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	1,980,000	50.6
セイコーインスツル株式会社	816,000	20.9
久保田 正明	60,000	1.5
ジーダット従業員持株会	52,100	1.3
兼浜 勝弘	40,300	1.0
尾崎 敬郎	20,600	0.5
若林 敬三	19,000	0.5
JPモルガン証券株式会社	18,100	0.5
株式会社エスケーエレクトロニクス	18,000	0.5
大日本印刷株式会社	18,000	0.5

所有者別状況 (2023年3月31日現在)		
所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	2,900	0.1
証券会社	50,285	1.3
その他国内法人	2,844,015	72.7
外国法人等	82,300	2.1
個人・その他	869,828	22.3
自己名義株式	60,472	1.5
計	3,909,800	100.0



本社 東京都中央区湊1-1-12 HSB鐵砲洲 Tel : 03-6262-8400 (代)
当冊子に関するお問い合わせ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

株主メモ

上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 (https://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式事務のお問い合わせ先

住所変更、株式配当金受取り方法の変更及びマイナンバーのお届出などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	みずほ信託銀行 証券代行部 ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	お取引の証券会社またはみずほ信託銀行へお問い合わせ願います。 みずほ信託銀行 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株式等に関するマイナンバーのお届出のお願い	・株式等の税務関係のお手続きに関しては、マイナンバーのお届出が必要です。 ・お届出が済んでいない株主さまは、上記お問い合わせ先へマイナンバーのお届出をお願いします。

株式分割

当社は、投資単位当たりの金額を引き下げるにより、より一層投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的として2022年4月1日付で当社普通株式1株を2株に分割いたしました。

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた鐵砲洲の情景です。江戸の入り口として日本の全国各地から廻船が集まった歴史あるこの地から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界へ発信いたします。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

第21期 株主通信

自2022年4月1日 至2023年3月31日



歌川広重「鐵砲洲真景」国立国会図書館所蔵



JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

財務ハイライト

(単位：百万円)

売上高・研究開発費



経常利益・当期純利益



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第21期における当社の売上高は、前年比2.3%増となる20億17百万円となりました。海外半導体市場向けの売上が伸長したことに加えて利益率が増加した影響で、営業利益は前期比22.1%増の2億67百万円となりました。当事業年度における当社の活動といたしましては、主力製品であるSX-MeisterのVer.14.0をリリース、アナログLSIの設計自動化機能を更に拡充し、大型パネル向けの容量抽出ツールの発売を開始いたしました。また、代理販売品のラインナップを強化し、産官学との連携も促進してまいりました。

当社を取り巻く電子デバイス業界の状況は、半導体分野において世界的にシリコンサイクルの「谷間」に突入しつつあると考えております。一部の車載向け等では品薄の傾向が継続しているものの、特に設計設備に対する投資は急速に冷え込んできました。また、FPD (Flat Panel Display) 等

国内において厳しい局面にあり、新技術パネル・異形表示パネルの研究開発は継続中であるものの、業界としての業績悪化が急速に進んでおります。

そのような中で当社は、アナログLSI設計自動化環境 (ACC (Analog Chip Compiler)) 及び、パワーデバイスの設計効率化機能の拡張に向けた開発を継続し、コア製品の競争力・販売力を強化してまいります。加えて、外部技術の導入、活用を促進するなど、研究開発活動の強化を図りつつ、デバイス設計部門との連携を深めることで、設計者目線の製品づくりを行ってまいります。

営業活動におきましては、お客様の課題に寄り添う販促活動を展開するため、ハイブリッドからリアルへ軸足を移した営業活動を実施、お客様との対話を促進しながら、半導体製造装置、材料、後工程分野などの新規顧客層の開拓を図ります。海外半導体市場向け売上の拡大の施策といたしましては、大規模フォトマスクデータブラウザ：HOTSCOPEの販促活動を強化し、平行して「プラットフォーム」戦略の促進を進めてまいります。また、デバイス設計受託サービスにおいては、重点顧客の深耕・拡張を行うことで業績安定性の確保に努めます。EDA開発との連携を強化することで設計技術の具現化と蓄積を図り、成長路線に向けた布石として、新規顧客・新技術の開拓を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

松尾和利

特集 EDA開発本部 部長に聞く

液晶・OLED パネル向け高精度・高速容量抽出ソルバー SuperCap RXが実現する高速シミュレーション

SuperCap RXは、ジーダットが2022年7月に発表した、液晶・OLED パネル向けの高精度・高速容量抽出ソルバーです。大規模化・高精細化・任意形状化がすすみ、ますます性能・用途が広がる液晶・OLEDパネルの設計効率化を飛躍的に推進させるSuperCap RXについて、EDA開発本部 部長 米田 欣也に聞きました。

高性能な液晶・OLEDパネルとはどのようなものですか？

液晶・OLEDパネルといえば、テレビやスマートフォンなどで使われているのをよく目にしますが、他にも、ディスプレイ機器として様々な分野で広く使われています。最近では、車載用として20インチ以上の大型パネルが使用されるケースや、医療機器用や教育用タブレット等、様々な分野で使用されています。

パネルの性能には、解像度、コントラスト、反応速度など、様々な側面がありますが、これらの性能が上がれば、動画やスポーツ等を、より詳細できれいに、スムーズな動きで視聴することができるようになります。

半導体の設計と比較して、液晶・OLEDパネルの設計とはどのようなものですか？

半導体とパネルのレイアウトパターンとのデータは対照的です。

半導体の設計は、数ミリから数センチ角の大きさ

に、数億個から100億個以上のトランジスタ等のデバイスを集積します。それに対して液晶パネルは、50インチ以上の大きさに含まれるトランジスタは、最大でも数百万個から数千万個ですので、集積度に関しては圧倒的に半導体の方が高いです。

集積度が高い半導体のレイアウトパターンは、ほとんどが垂直、水平の線で構成する直交系の形状で構成されているため、デジタルの設計を中心に設計の自動化が進んでいます。一方で液晶パネルの設計においては、ちらつきを防止するなどパネルの特性を上げるために、配線の幅は一定ではなく、斜めの形状の配線も多く含まれます。そのため液晶パネルは、配線パターンの生成など、個々の場面で設計を自動でサポートする機能があるものの、マニュアルでの設計が主体になっています。

SuperCap RXとはどんなツールですか？

SuperCap RXは、液晶・OLEDパネルやタッチパネル等のフラットパネルの静電容量を計算するソフトウェアです。

静電容量を測定する方法の1つに、数値解析手法



EDA開発本部 部長
米田 欣也

を用いて電界の方程式や電荷の分布等を近似的に解く電界解析シミュレーションがあります。従来、この処理アルゴリズムとしては、従来有限要素法や境界要素法等が用いられてきましたが、SuperCap RXは、電界解析シミュレーションの最新のアルゴリズムである、フローティングランダムウォーク法を採用しています。この方法では、従来の方法と比較して、メモリ等のマシン資源を大きく消費せずに数十倍以上の高速処理が可能になります。

SuperCap RXの一番の強みは何ですか？

ハードウェア資源（物理メモリ）をほとんど消費せずに、高速で処理できるという点が、SuperCap RXの一番の強みです。SuperCap RXの抽出エンジンは、フローティングランダムウォーク法を用いることで、高速な処理を実現していますが、この方法は原理的にハードウェアのメモリの消費量が非常に少ないのが特長です。これによって、従来では難しかったフラットパネル周辺配線全体といった大きなサイズのデータも、実用的な時間で処理を行うことができます。性能と精度とはトレードオフの関係に

ありますので、必要性に応じて性能を精度向上に置き換えることもできます。

SuperCap RXの将来像について教えてください

まずは、フローティングランダムウォーク法のエンジンについて処理の最適化や改善を継続的に行うことで、更なる性能の改善を図っていきます。最新のエンジンプログラムは、昨年のプログラムより約2倍の高速化を実現しており、この改善は今後も継続します。また、パラメータ設定の自動化等を進めて、操作性の向上を図ります。

更に将来的には、多様なプロセス構造への対応を進めていきたいと考えています。例えばOLEDでは、湾曲した形状のパネルが提供され始めていますが、現状のSuperCap RXではこのような構造を定義することができません。パネル形状の多様性は、今後も更に進んでいくものと考えられますので、対応できるプロセス構造を拡張していきます。また、プロセス構造の自由度を高めることで、今後、SuperCap RXの適用分野をパネルの設計だけではなく、半導体やMEMS等の設計へ拡張できればと考えております。

販売戦略について教えてください

国内及び、フラットパネル製造、販売の中心である韓国、台湾、中国等の東南アジアを中心に、今後3年間で約1.2億円の売上を見込んでいます。SuperCap RXはSX-Meisterの一製品ではありますが、他の製品より独立性が高く、SuperCap RX単体でも動作するように作っています。これは特に海外販売をターゲットとして他社の環境にもスムーズに入り込めることを狙ったものです。

まずターゲットとなるのは、フラットパネルを設計されるお客様ですが、今後更に、SuperCap RXの適用範囲を広げるための機能強化を検討し、パネル関連以外の新規顧客も開拓していきたいと考えております。

● 海外半導体市場向けの売上伸長、利益率の向上により増収増益

当事業年度における、当社の主要顧客である半導体やFPD (Flat Panel Display) 等を始めた電子部品業界は、スマートフォン、PC、サーバ等最終製品の世界的な需要減少の影響を受けて、いわゆるシリコンサイクルの「谷間」に突入しつつあります。一部の車載等の分野では供給不足の状況が継続していますが、全体としては供給過多の傾向であり、特にメモリ関連においては厳しい状況に陥り始めました。そのため設備投資に対しても、消極的な動きが散見されており、特に設計設備に対する投資は急速に冷え込んできました。また国内におけるFPD関連においても、歯止めが利かない単価下落により、急速に業績が悪化してきました。

こういった状況の中当社は、主力製品であるSX-Meisterにおいては、アナログLSIやパワー半導体の設計効率向上に向けて自動化を実現するべく研究開

発を進めており、6月と12月に最新の自動化機能を実装したバージョンをリリースいたしました。国内の販売促進活動においては、各種セミナーをリアル／リモートのハイブリッド方式で開催しました。設計受託分野においては、新規顧客の開拓活動に並行して既存顧客の深耕活動も実施して、売上の安定化を図りました。一方海外市場においては、主力製品：SX-Meisterの販促活動に加えて、半導体市場向けに大規模フォトマスクデータブラウザ：HOTSCOPEの拡販にも注力したこともあり、順調に売上を伸ばしました。

これらの活動の結果、当事業年度の売上高は20億17百万円（前年比2.3%増）となり、営業利益は利益率が増加した影響で2億67百万円（同22.1%増）となりました。助成金収入、投資事業組合運用益及び為替差益を計上したことで経常利益は3億17百万円

（同14.8%増）となりました。当期純利益は、外国為替控除等を適用した結果2億66百万円（同57.4%

増）となりました。

● FPD関連及びターンキー関連のデバイス設計受託分野は減少も、海外におけるSX-Meister及びHOTSCOPEの売上が伸長

製品売上高は11億62百万円（前期比6.0%増）となりました。

製品売上高が増加した主な理由は、特に海外において主力製品：SX-Meister並びに大規模フォトマスクデータブラウザ：HOTSCOPEの売上が順調に推移したことによるもの等であります。引き続き国内外の市場に向けた積極的な営業活動を展開してまいります。

保守サービス売上高は4億18百万円（前期比4.9%増）となりました。保守サービス売上高が増加した主な理由は、国内市場の縮小傾向に逆行するべく、積極的な新機能提案活動に加えて保守契約の締結促進活動を実施した結果、保守契約の減少を凌駕した

ことによるものであります。引き続き顧客ニーズに合わせたサポート・サービスの向上に努めてまいります。

ソリューション売上高（受託開発等）は4億36百万円（前期比8.5%減）となりました。

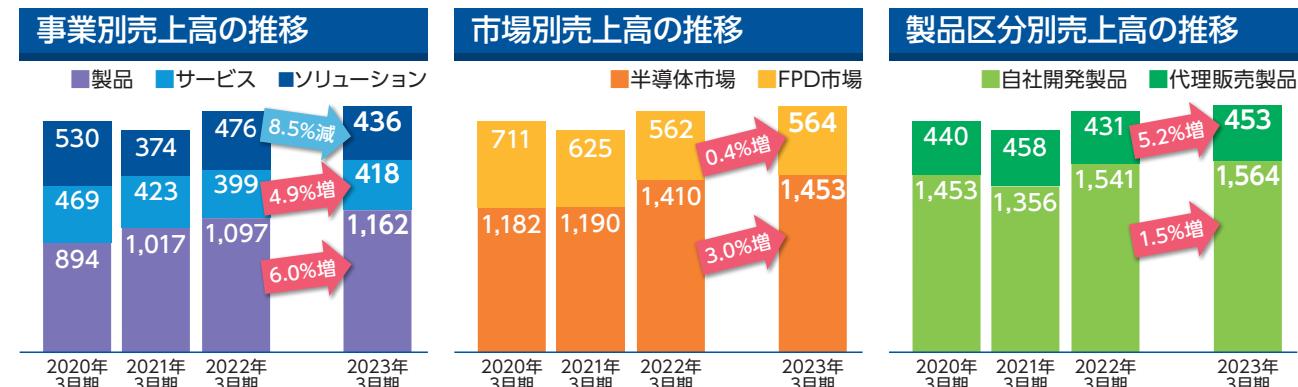
ソリューション売上高が減少した主な理由は、デバイス設計受託分野においてFPD関連及びターンキー関連の売上減少等に対抗して、半導体関連の売上を伸ばす活動を実施しましたが、カバーしきれなかったことによるものであります。

引き続き半導体関連の既存顧客の売上拡大に加えて、新顧客の開拓を積極的に進めてまいります。

(単位：百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前期比
売上高	1,893	100.0%	1,815	100.0%	1,973	100.0%	2,017	100.0%	+2.3%
売上総利益	1,097	57.9%	1,136	62.6%	1,264	64.1%	1,305	64.7%	+3.3%
販売費及び一般管理費	966	51.1%	1,002	55.2%	1,045	53.0%	1,038	51.5%	△0.7%
営業利益	130	6.9%	134	7.4%	218	11.1%	267	13.2%	+22.1%
経常利益	135	7.2%	150	8.3%	276	14.0%	317	15.7%	+14.8%
当期純利益	93	4.9%	101	5.6%	169	8.6%	266	13.2%	+57.4%

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位:千円)

科目	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産	4,055,895	4,180,274
1 2 現金及び預金	3,456,311	3,644,221
受取手形	—	734
電子記録債権	186,072	167,852
売掛金	367,870	312,401
仕掛品	3,049	—
原材料	1,411	199
前払費用	23,196	37,968
その他	17,983	16,894
固定資産	275,645	310,525
有形固定資産	45,238	31,615
無形固定資産	6,046	22,403
投資その他の資産	224,360	256,506
投資有価証券	108,472	124,590
繰延税金資産	69,006	80,941
その他	46,882	50,974
資産合計	4,331,540	4,490,799

1 現金及び預金と現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と貸借対照表「現金及び預金」との差異は、主に預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円等によるものであります。

科目	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債	1,214,298	1,184,744
買掛金	107,503	115,999
未払金	55,000	23,268
未払費用	41,089	37,235
未払法人税等	66,332	21,419
前受金	833,280	866,855
預り金	16,118	10,034
賞与引当金	87,563	94,161
その他	7,410	15,769
固定負債	6,310	3,700
資産除去債務	6,310	3,700
負債合計	1,220,608	1,188,444
純資産の部		
株主資本	3,110,820	3,302,355
資本金	761,496	762,524
資本剰余金	892,415	893,443
2 利益剰余金	1,485,548	1,675,027
自己株式	△ 28,639	△ 28,639
新株予約権	111	—
純資産合計	3,110,932	3,302,355
負債純資産合計	4,331,540	4,490,799

2 現金及び預金と利益剰余金

「利益剰余金」の増加分がそのまま「現金及び預金」の増加分に反映されています。

損益計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当事業年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
売上高	1,973,334	2,017,954
売上原価	709,062	712,563
売上総利益	1,264,272	1,305,391
販売費及び一般管理費	1,045,489	1,038,306
営業利益	218,783	267,084
営業外収益	57,670	50,290
営業外費用	0	0
経常利益	276,454	317,374
特別利益	—	39
税引前当期純利益	276,454	317,414
法人税、住民税及び事業税	164,985	62,964
法人税等調整額	△57,804	△11,935
当期純利益	169,272	266,385

株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本								新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本 準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	761,496	892,047	368	892,415	1,485,548	1,485,548	△28,639	3,110,820	111	3,110,932
当期変動額										
新株予約権の行使	1,028	1,028		1,028				2,056	△72	1,984
新株予約権の失効									△39	△39
剰余金の配当					△76,906	△76,906		△76,906		△76,906
当期純利益					266,385	266,385		266,385		266,385
当期変動額合計	1,028	1,028	—	1,028	189,478	189,478	—	191,534	△111	191,423
当期末残高	762,524	893,075	368	893,443	1,675,027	1,675,027	△28,639	3,302,355	—	3,302,355

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当事業年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	795,929	311,153
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,744	△52,082
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37,535	△74,922
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,198	980
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	739,848	185,128
現金及び現金同等物の期首残高	1,785,860	2,525,708
1 現金及び現金同等物の期末残高	2,525,708	2,710,836

1株当たり情報

1株当たり純資産	857円90銭
1株当たり当期純利益	69円22銭

トピックス

● 東京工業大学とアナログLSIの自動配線の共同研究成果を論文発表

2022年5月、ジーダットが東京工業大学工学院 高橋篤司教授と共同研究を行ってきたアナログレイアウトの自動化に関する研究成果の一部が「アナログ集積回路面積削減のためのボトルネックチャンネル配線の提案」として電子情報通信学会に掲載されました。

アナログ・ミックスドシグナルやASSP (特定用途向け標準製品) では、配線リソースを有効活用し、LSIの面積を最小化することが求められます。本研究では、面積削減のボトルネックとなる配線領域で配線を上下層で並走させる「ボトルネック配線方式」を提案します。この方式によって配線層の利用効率が向上し、従来の自動配線技術では困難であった面積削減を実現することができます。この成果は、ジーダットが目指しているアナログチップ及びブロック内の配線を、人の手に近い品質で行える自動化アルゴリズム及び手法を実現します。その成果を半導体設計環境SX-Meisterへ組み込むことで、自動配線機能の大幅な性能・品質向上を目指します。

● ジーダットが九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会に加入

2022年6月、ジーダットは九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会に入会いたしました。九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会(SIIQ)は、経済産業省が進める産業クラスター計画を推進する機関として、九州地域における半導体・エレクトロニクス関連産業の振興を目的とし、2002年5月に設立されました。SIIQが進めるオープンイノベーションやマッチング及び人材確保支援などを通じて、更にお客様に役立つ活動を進めます。

● ジーダットが液晶・OLEDパネル向け高精度・高速容量抽出ソルバーを開発

ジーダットは、EXCEEDA社*の最新フローティングランダムウォーク法抽出エンジンを導入した容量抽出ソルバー SuperCap RXを開発、2022年7月に評価用モジュールの提供を開始しました。

SuperCap RXは、EXCEEDA社の最新フローティングランダムウォーク法抽出エンジンを導入することで、解析サイズに制限なく、高精度を保ったまま処理速度を約10倍～100倍向上させることが可能となりました。

また使用メモリサイズも約1/10に抑えられ、大規模なフラットパネル・タッチパネルの周辺配線から画素部を含んだ全体の容量を高速、高精度に抽出することができるようになります。

ジーダットは世界中のパネルメーカーに容量抽出ツールや解析サービスを提供しており、この実績のあるサポートと、高精度・高速・大規模対応を可能とした容量抽出ソルバー SuperCap RXにより、国内外のパネルメーカーの設計効率化を飛躍的に推進します。

(※)EXCEEDA社は、中国清華大学が設立したEDAソフトウェアベンダです。3次元寄生抽出と高性能受動素子回路シミュレーションのための先進的なEDA技術とツールを開発しています。

会社概要/役員

(2023年6月21日現在)

会社概要		役員	
商号	株式会社ジーダット (Jedat Inc.)	代表取締役	松尾 和利
所在地	〒104-0043 東京都中央区湊1-1-12 HSB鐵砲洲	取締役	太田 裕彦
代表者	代表取締役社長 松尾 和利	取締役	藤澤 義麿
営業開始	2004年2月2日	取締役	長谷部 邦雄
資本金	762,524,260円 (2023年3月31日現在)	社外取締役	大熊 右泰
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング・半導体集積回路の設計受託	社外取締役	渥美 滋
		監査役(常勤)	小川 泰
		社外監査役	日比野 好恵
		社外監査役	小松 弘明